

平成 2 2 年度

第 1/3 回

(集団研修)

自然・文化資源の持続可能な利用
(エコツーリズム)

実施要領

平成 2 2 年 9 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 案件目標	2
4. 単元目標	2
5. 研修成果品	2
6. 研修員参加資格要件	3
7. 研修実施体制	3
8. 研修の評価	4
9. 研修付帯プログラム	4
10. 主な宿泊場所	5
11. その他	5

付属資料

付表－1 研修員関連情報

付表－2 カリキュラム（案）

付表－3 平成22年度日程表（案）

付表－4 年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) コース名

和文：（集団研修）自然・文化資源の持続可能な利用（エコツーリズム）

英文：Group Training Program on “Eco-Tourism for Sustainable Use of Natural and Cultural Resources ”

(2) 受入期間

平成 22 年 8 月 29 日（日）～10 月 15 日（金）

(3) 技術研修期間

平成 22 年 9 月 6 日（月）～10 月 13 日（水）

(4) 定員、割当国

定 員：7 名

割当国：アルゼンチン、ケニア(2)、スリランカ(2)、タイ、ウガンダ、バヌアツ、ベトナム（下線は受入国）

(5) 類型 人材育成普及型

(6) 使用言語 英語

2. 案件の背景・目的

国連は、観光に持続可能な開発の視点をより多くの人々に取り入れてもらうため、2002 年を「国際エコツーリズム年」と定めた。エコツーリズムとは地域の自然や伝統文化を体験し理解を深めながら、そのよりよい保全と地域振興に貢献することを目指している。

世界観光機構（WTO）では、持続可能な観光として、保護する観光の対象を自然資源だけでなく歴史遺跡や伝統・文化など有形無形な資源にまで広げるとともに、貴重な観光資源を観光客がすり減らすことなく、次世代にも伝えていくということと定義付けている。多くの途上国においては、観光産業は大事な外貨獲得の手段となっているとともに、地域住民の雇用機会創出と地域経済活性化という点で地域開発の面においても重視されており、観光資源の開発と保全の両立は切実な課題となっている。同時に、環境保全は経済・社会発展において極めて重要な課題となっており、緊急の課題である。

本コースでは、地域の自然・文化資源の保全とその持続的利用を可能にするツールとして、地域住民の参画によるエコツーリズムを導入するための施策を学ぶことを目的としている。

3. 案件目標

エコツーリズムの導入を予定している地域で、地元住民を巻き込んだ持続的地域開発のツールとしてのエコツーリズム手法の導入・普及計画案が、所属部署において作成される。

4. 単元目標

- (1) 自然、文化資源の保全と持続的利用にかかわる「エコツーリズム」の理念、施策について理解し、説明できる。
- (2) 環境保全に配慮した「エコツーリズム」推進のためのプランについて議論できる。
- (3) 地域住民や関係者とのネットワーク構築のための手法を説明できる
- (4) エコツーリズム導入手法に関する行動計画（案）の作成ができる。

5. 研修成果品

- (1) 本邦研修実施前

「初期報告書（Inception Report）」の作成

研修員の担当地域・保護区での課題分析や、それに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に発表する。

- (2) 本邦研修終了時

「中間報告書（Interim Report）」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に単元目標（４）にかかる行動計画（案）を作成し、コース終盤に中間報告を発表する。

- (3) 帰国後の事後活動

「最終報告書（Final Report）」の作成

研修員は帰国後、中間報告書に書かれた行動計画（案）を所属組織に報告、関係者と共有のうえ検討し、最終的な行動計画をまとめ、帰国後３ヶ月以内に JICA 帯広に提出する。

6. 研修員参加資格要件

(1) 募集要項記載条件

- ア. 中堅行政職、またはエコツーリズムを企画・推進する立場にある者
- イ. 当該分野で2年以上の経験がある者
- ウ. フィールド研修のできる十分な体力と精神力がある健康な者

(2) 各案件共通資格要件

- ア. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること
- イ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること
- ウ. TOEFL IBT 72 点（CBT 200 点／PBT 533 点）以上に相当する英語能力を有すること
- エ. 心身ともに健康なこと
- オ. 軍に属していないこと

7. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（JICA 帯広）が計画するコースの実施に関する業務を、釧路国際ウェットランドセンター（KIWC）に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。また、技術研修期間中、財団法人日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員を配置する。具体的業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

- ア. 実施計画書作成（コース目的、案件目標、研修期間等）
- イ. 評価
- ウ. 実施予算の執行管理
- エ. 募集要項および実施要領等の作成等

(2) KIWC

- ア. 日程表の調整・作成
- イ. 講師、視察先等への連絡・確認

ウ. テキスト、資料等の手配等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言等

(4) JICE

ア. 関係者間の連絡調整

イ. 通訳等

8. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件到達目標（1 頁参照）に基づき、研修成果の測定、分析を通じてコース終了時に、当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本コースの質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による案件目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、KIWC 等が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度のコース改善に向けて対応方針を検討する。

9. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に、帯広国際センター（以下 OBIC: Obihiro International Center）で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明のほか、日常生活を送る上での諸注意等を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

OBIC で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、政治・経済・教育・行政などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として 10 時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程(予定)

日 程	内 容
8 月 30 日 (月)	ブリーフィング
8 月 31 日 (火) 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の社会と日本人」 生活オリエンテーションバスツアー
9 月 1 日 (水) 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の政治、行政」「日本の経済」 講義「日本の歴史・文化」「日本の教育」
9 月 2 日 (木)	日本語講習
9 月 3 日 (金)	日本語講習

10. 主な宿泊場所

帯広国際センター (OBIC)

所在地：〒080-2470 北海道帯広市西 20 条南 6 丁目 1-2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

ホテル釧路ロイヤルイン

所在地：〒085-0018 北海道釧路市黒金町 1 4 丁目 9-2

Tel (0154) 31-2121 Fax (0154) 31-2122

11. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本案件に地域の小中学校の生徒や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

以上



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
ホームページ : www.jica.go.jp/obihiro/
メール : jicaobic@jica.go.jp

研修員関連情報

研修員情報(英語力はリスニング／スピーキング／記述読解能力の順に4段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし)

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
1	① Ms. BLOCKI Valeria ② D-10-04308 ③ 31歳 ④ 女性 ⑤ アルゼンチン	① ネウケン州観光局 パタゴニア湖管理署署長 ② 2年 ③ コマウエ大学(観光) ④ AAAA ⑤ 国際協力大学(コスタリカ) 3月/’09～12月/’10 持続的観光管理	① ・パタゴニア湖南部地域の観光開発計画、管理 ・ネウケン州政府の政策である持続的開発に 基づいた観光産物の調査および戦略的開発、 観光地、ルート、回廊などの強化 ② ・観光活動が雇用と経済発展を生み出すものとしての 認識の確立 ・観光政策として、社会的、文化的、歴史的、環境的、 経済的な側面から、ネウケン州各地域の住民の独自性、 伝統や価値観を重んじ観光部門の持続的発展に寄与する	・ラムサール条約登録湿地およびその活動 ・他の研修員との情報交換 ・実現可能なエコツーリズムプランの開発手法と実習
2	① Mr. GITHINJI Samuel Muraya ② D-10-04934 ③ 29歳 ④ 男性 ⑤ ケニア	① ケニア野生生物局 野生生物・コミュニティーサービス部 ナイロビ国立公園観光監視員 ② 3年 ③ エガートン大学(ICT情報通信技術) ④ AAAA ⑤	・公園管理、教育機関、組織団体、観光客、地域住民への 観光、環境問題に関する情報提供 ・公園施設の維持管理 ・地域に限定しない観光商品の開発 ・保護活動の計画、実施、製品開発および関係者、 職員の研修実施 ・新たな観光商品が合法かつ倫理的要件を満たすことを 確認するためのモニタリング、評価 ② 地域住民、教育機関など多くのステークホルダーとの協力 による野生生物および生息環境の持続的保護、管理	・エコツーリズムプログラムの実施に関する成功事例
3	① Mr. IRERI Philip Mureithi ② D-10-04932 ③ 29歳 ④ 男性 ⑤ ケニア	① ケニア森林局 森林保護・管理部 エコツーリズム主任担当官 ② 3年 ③ ナイロビ大学’03～’08 (農村社会学/コミュニティー開発) ケニヤッタ大学’96～’00(環境研究) ④ AAAA ⑤	① ・エコツーリズム戦略、プログラムの計画、開発、実施 ・エコツーリズム開発の投資に関する指導 ・エコツーリズム作業計画、プログラムの開発 ・エコツーリズムに関連した調査 ② 環境安定性および社会経済開発のための森林資源の 持続的管理、利用による森林保全強化	・責任あるツーリズムおよびエコツーリズムの推進 ・環境保護、コミュニティー開発および貧困撲滅のための ツーリズム利用
4	① Mr. MADUE GURUGE Manoj Prasanna ② D-10-04754 ③ 36歳 ④ 男性 ⑤ スリランカ	① 環境・自然資源省生物多様性事務局 環境プログラムアシスタント ② 5年 ③ ペラデニア大学大学院(植物科学/生態学) ④ BBBB ⑤	① 環境プログラムアシスタントとして ・山地生物多様性管理－政策策定、行動計画作成、 生物多様性調査、脅威の特定、エコツーリズム可能性調査、 山岳エコツーリズム指針作成、啓蒙活動、出版物刊行 ・マングローブ、湿地生物多様性管理－保全活動計画作成、 ワークショップ開催、環境保全教育のための現地調査、 出版物刊行、湿地エコツーリズム指針作成 ・古生物多様性、考古学－環境に敏感な地域の遺跡調査 およびその特定、古生物多様性保全活動計画作成 ② 環境省－国民の利益を目的とした持続的開発を達成する ために環境、自然資源の管理において主導的役割を担う 生物多様性事務局－生物多様性保全、自然資源の持続的 利用を促進し、持続的開発において主導的役割を担う	・マングローブおよび湿地保全

5	① Mr. MANICKAM Uthayakumar ② D-10-04751 ③ 49歳 ④ 男性 ⑤ スリランカ	① 東部州地方行政局 コミッショナー ② 1年 ③ ペラデニア大学（経済学） ④ BBBB ⑤ KILA(インド)1週間の研修旅行2010 他短期研修多数	① 東部州の地方政府の総括的管理; 地域住民の生活水準改善のために地方自治体が、 公衆衛生、主要道路および公共施設整備、観光促進 などのサービス提供を行うことを保証するための支援、監視 ② 観光促進 地方自治体への支援、監視を行う ・地方政府の能力開発による東部州の民主化支援 ・大多数の国民が享受できる公共サービスへの投資	・自然資源保護 ・観光促進
6	① Ms. WANTHONGCHAI Poonsri ② D-10-04432 ③ 38歳 ④ 女性 ⑤ タイ	① 海洋・沿岸資源局マングローブ保護事務所 森林技官(プロフェッショナルレベル) ② 2年 ③ カセツサート大学(森林生物学) ④ BBBB ⑤ Fureiburg大学(ドイツ)5月/'04～10月/'05 GIS、森林資源調査	① ・住民参加によるマングローブ林観光計画開発 ・調査プロジェクト ・地域住民が伝統的に有する知識に関する調査研究および 成果普及 ・自然資源の持続的利用を目的とするマングローブ林保護の コミュニティネットワークの構築 ② ・海洋・沿岸資源保全、復旧、海洋生物多様性保全および 調和の取れた資源、環境保全と社会経済的活動の推進	・日本の観光政策 ・湿地保全、観光 ・自然公園での観光プログラム (カヤック、ダッチオープンでの調理、河川観察等) ・ラムサール条約登録湿地での観光 ・環境保護、伝統文化と観光プログラム ・地域環境保護と観光プログラム
7	① Mr. NAYEBARE Prosper Kakwara ② D-10-04453 ③ 31歳 ④ 男性 ⑤ ウガンダ	① 森林局森林監視官 ② 2年 ③ マケレレ大学(林学) ④ AAAA ⑤	① ・観光促進 ・観光客の森林への案内 ・森林経営計画作成、実施 ・良好な広報活動の保証 ・地方審議会および地域集会への参加 ② ・中央森林保護区の持続的管理 ・政府、地域住民、民間部門への良質な林産物の供給	・観光管理 ・文化財保護 ・保護活動への住民関与
8	① Ms. TRAN Tram Thi Hoai ② D-10-04443 ③ 33歳 ④ 女性 ⑤ ベトナム	① トゥアティエンフエ省人民委員会事務所 総務課課長補佐 ② 3年 ③ フエ大学(経営管理) ④ AAAA ⑤ 青年招聘プログラム(JICA)2005年	① ・観光を含む社会経済開発 ・国際協力 ・事業融資および貧困対策 ② ・地域内の情報収集、処理、普及 ・人民委員会および人民評議会のための事業計画作成 ・事業実施のための人民委員会の支援 ・人民委員会による決定事項の関係部局への伝達および 決定事項の実施、監督	・観光開発、企画に関する経験

カリキュラム(案)

コース目的：自然環境及び自然公園の管理・運営と利用において、国際環境法の理念に基づき、自国の自然環境保全と資源の賢明な利用について意識を高め、普及啓発を促進できる人材を育成する。

項目	科 目	講義	実習	視察	担当講師	プログラムの内容とねらい
単元目標1：自然・文化資源の保全と持続的利用にかかわる「エコツーリズム」の理念・施策について理解し、説明できる。						
エコツーリズムの理念	エコツーリズム総論	4.0			マーク・ブラジル	エコツーリズムの理念と概要について、世界各国の事例を参考に学ぶ
	文化史跡とエコツアープログラム	2.0		2.0	真板昭夫 (京都嵯峨芸術大学)	文化資源の保全と連携したエコツアーについて、京都等の事例を参考に学ぶ
	地域におけるエコツーリズムの取り組み (ラムサール条約との連携)	2.0			新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員)	釧路地域における事例紹介を通じ、エコツアーをラムサール条約の「湿地の賢明な利用」の一例として位置づけ、条約の理念・指針に基づくエコツアーのありかたについて学ぶ
エコツーリズムの施策	日本における国立公園の管理・運営	2.0			環境省自然環境局国立公園課	日本における国立公園の運営を紹介し、自然環境の保全、及びその利用のために必要な施策について学ぶ
	日本のエコツーリズム施策	2.0			環境省自然環境局ふれあい推進室	日本における法整備や普及啓発事業等を紹介し、中央政府によるエコツーリズムの推進のための施策について学ぶ
自然環境保全・自然資源管理	湿地保全とエコツアー (キラコタン岬・コッタロ湿原)		5.0		新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員)	釧路湿原天然記念物指定区域での湿地モニタリングを紹介し、自然公園・保護区におけるモニタリングの意義と手法について学ぶ
施設の整備と利用	遊歩道の設置と活用 (釧路湿原温根内)		2.5		新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員)	湿原に面した丘陵地における遊歩道の事例を紹介し、遊歩道設置における植生への配慮や、多様な自然環境を紹介するためのレイアウトの工夫、エコツアーや環境教育での活用の方法について学ぶ
	国立公園の施設の活用		2.0		牛崎 方恵 (釧路湿原国立公園 塘路湖エココミュニティセンター)	国立公園内の自然情報施設を紹介し、展示手法や環境保全教育プログラムをはじめとする普及啓発活動について学ぶ
単元目標2：環境保全に配慮した「エコツーリズム」推進のためのプランについて議論できる。						
エコツーリズムモデルプログラム	自然公園のエコツアープログラム (シーカヤック・トレッキング)		5.0		然別湖ネイチャーセンター 〔〔株〕北海道ネイチャーセンター〕	湖でのシーカヤック、ハイキングの事例を通じ、地域の自然を環境改変の少ない方法で活用するエコツアープログラムについて学ぶ
	自然公園のエコツアープログラム (ダッチオープン料理体験)		3.0		然別湖ネイチャーセンター 〔〔株〕北海道ネイチャーセンター〕	地場産農作物を、野外調理体験などのプログラムとして提供するプログラムを通じ、地域産品の観光利用の手法について学ぶ
	自然公園のエコツアープログラム (リバーウォッチング・クラフト製作)		4.0		然別湖ネイチャーセンター 〔〔株〕北海道ネイチャーセンター〕	箱メガネによる河川観察や、野生生物をモチーフとしたクラフト製作など、地域の特徴的な自然を、だれでも体験可能な環境教育的観光プログラムの素材に活かす手法について学ぶ
	自然公園のエコツアープログラム (エアトリップ)		2.0		然別湖ネイチャーセンター 〔〔株〕北海道ネイチャーセンター〕	空間を立体的に利用し、環境改変を最小限に抑えた観光施設の設営と、環境教育的プログラム「エアトリップ」の手法について学ぶ
	ラムサール湿地におけるエコツアー (別寒別牛川カヌー)		2.0		曙カヌー工房	特別天然記念物タンチョウが繁殖する別寒辺牛湿原におけるカヌープログラムの事例について紹介し、希少野生生物の生息地でのエコツアーにおける、配慮とガイドラインの必要性について学ぶ
	里山におけるエコツアー			5.0	ケビン・ショート (東京情報大学)	千葉県の里山を紹介するエコツアーを事例に、人里の身近な自然を活用したツアープログラムや、地域住民への普及啓発の可能性について学ぶ
	地域の伝統文化とエコツアープログラム (東京・浅草)	1.5		1.5	新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員) (株)時代屋	東京・浅草で実施されている人力車体験プログラムを紹介し、伝統文化の保存と観光への活用、地域づくりとの連携について学ぶ
	環境保全・伝統文化とエコツアープログラム		4.0		辻井ミカ (嵯峨御流華道総司所)	地域の環境保全と連携した「華道」「茶道」を通じて、地域の自然と結びつきの強い伝統文化を紹介し、エコツアーにおける伝統文化のファシリテーションについて学ぶ
エコツーリズム手法 国際環境法との連携	地域におけるエコツーリズムの取り組み (塘路湖の漁業者運営によるカヌー、湧水観察)		2.5		新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員) 土佐良範 〔〔有〕レイクサイドとろう、塘路湖漁協〕	国立公園・ラムサール登録湿地における漁業者の副業としての観光カヌー運営と、地域産業の現場である水環境の保全・管理の自主的な取り組み事例について学び、地域産業を活用した住民主体のエコツアー運営と環境保全との関わりについて理解する
エコツーリズムモデルプログラム	フィールドを生かしたエコツアープログラム (釧路湿原細岡)		2.0		新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員)	釧路湿原細岡地区の先史時代の遺跡や湧水などを紹介するエコツアープログラムを通じ、ツアーや環境教育の素材となる地域資源を見出すための視点やその具体的な活用方法について学ぶ
	地域における施設の活用 (細岡ビクターズラウンジ)		2.0		渡辺 寿 (釧路町細岡ビクターズラウンジ)	端材を活用したウッドレター製作の事例を紹介し、一般観光客も気軽に参加できるプログラムの開発や期待される環境教育的効果について学ぶ
	地域を生かしたエコツアープログラム (どさんこ乗馬によるハイキング)		5.0		鶴居どさんこ牧場 〔〔株〕鶴居村振興公社〕	北海道の在来馬を活用した環境に配慮したエコツアープログラムを紹介し、地域産業の観光・環境教育面での活用手法と地域づくりとの関わりについて学ぶ
	地域のエコツアーの取り組み (無人島ツアー)		4.0		NPO法人霧多布湿原トラスト	漁業者による無人島(ケンボッキ島)ツアーの事例を紹介し、地域特性と産業を活かしたエコツアープログラムの手法と自然環境への配慮について学ぶ
	地域と連携したエコツアー (霧多布湿原センター)		5.0		浜中町霧多布湿原センター (NPO法人霧多布湿原トラスト)	霧多布湿原センターで実施されているエコツアープログラムを紹介し、地域の自然や産業、人材を生かしたツアーの運営と地域づくりとの関わりについて学ぶ
単元目標3：地域住民や関係者とのネットワーク構築のための手法を説明できる。						
ネットワーク構築	地域の環境保全とエコツアープログラム (京都大覚寺)	1.0	1.0	2.0	真板昭夫 (京都嵯峨芸術大学)	京都の寺院庭園の環境復元と利用のために組織されたネットワークの活動を紹介し、専門家と地域住民との連携について討論する
	地域の湿原保全の取り組み (霧多布湿原トラスト事務局)	2.0			NPO法人霧多布湿原トラスト	トラスト活動によるラムサール湿地・霧多布湿原の保全活動の事例について紹介し、地域住民を主体とする湿原保全活動について学ぶ
	地域の環境教育 (霧多布湿原センター)	1.0		1.0	浜中町霧多布湿原センター (NPO法人霧多布湿原トラスト)	霧多布湿原センターの事例をもとに、自然系施設における展示の工夫や環境教育プログラムの開発、自然情報のデータベース構築等、施設を拠点とした地域向けの普及啓発活動の手法について学ぶ
	学校における環境教育 (霧多布湿原センター)			3.0	浜中町霧多布湿原センター (NPO法人霧多布湿原トラスト)	霧多布湿原センターにおける校外学習としての環境教育プログラムの事例を紹介し、自然系普及啓発施設と学校との連携について学ぶ
	地域における環境教育の取り組み (厚岸水鳥観察館)	1.0		1.0	澁谷辰生 (厚岸水鳥観察館)	厚岸水鳥観察館を拠点とした、地域住民向けの野生生物・湿地保全に関する普及啓発の取り組みを紹介し、地域における自然系施設の役割について学ぶ
単元目標4：エコツーリズム導入に関する中間報告書の作成ができる。						
作成指導	コースオリエンテーション	1.5			新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員)	研修コース概要説明、研修員に求められることを説明する
発表会	ジョブレポート発表会		3.0		—	研修員各自の業務内容、抱える問題、研修に求める事など関係者が互いに理解する
討論	ワークショップ(エコツーリズムの運営)		2.0		新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員)	研修で学んだ内容を、自国におけるエコツーリズムの運営においてどう活かすか、ワークショップを通じて検討する
討論	ファシリテーションミーティング		2.0		新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員)	研修で学んだことや、アクションプランのアイディア等について、研修員主導による討論を行う
作成指導	アクションプラン作成指導	2.0			新庄 久志 コースリーダー (KIWC主任技術委員)	研修員によるアクションプラン作成の支援のため、プランの対象となる自国の抱える問題の整理やプランの実現性などについてコースリーダーが助言を与える
作業	アクションプラン作成		3.0		—	研修での経験や、コースリーダーの助言を元に、帰国後のアクションプランを作成する
発表会	アクションプラン発表会		2.0		—	本研修を活かした帰国後のアクションプランを通して理解度を測る
(小計)		22.0	63.0	15.5	総計 100.5	

平成22年度日程表(案)

月 日	曜日	午前/午後	プログラム	担 当	会 場	宿泊地
8月29日	日	来 日				帯広
8月30日	月	終 日	ブリーフィング		JICA帯広センター	帯広
8月31日	火	終 日	JICAブリーフィング／ジェネラルオリエンテーション		JICA帯広センター	帯広
9月1日	水	終 日	ジェネラルオリエンテーション		JICA帯広センター	帯広
9月2日	木	終 日	日本語講習		JICA帯広センター	帯広
9月3日	金	終 日	日本語講習		JICA帯広センター	帯広
9月4日	土	休 日				帯広
9月5日	日	休 日				帯広
9月6日	月	午 前	プログラム・カリキュラムミーティング	JICA/KIWC	JICA帯広センター	帯広
		午 後	ジョブレポート発表会	JICA/KIWC		
9月7日	火	午 前	地域におけるエコツーリズムの取組み	新庄久志 (KIWC)	JICA帯広センター	帯広
		午 後	移動: 帯広→然別			
9月8日	水	終 日	自然公園のエコツアープログラム	然別湖ネイチャーセンター	然別湖畔	然別
9月9日	木	終 日	自然公園のエコツアープログラム	然別湖ネイチャーセンター	然別湖畔	然別
9月10日	金	終 日	自然公園のエコツアープログラム 移動: 然別→帯広		然別湖畔	帯広
9月11日	土	休 日				帯広
9月12日	日	休 日				帯広
9月13日	月	午 前	移動: 帯広→釧路			釧路
		午 後	釧路市長表敬	KIWC	釧路市役所	
9月14日	火	午 前	地域におけるエコツーリズムの取組み	土佐良範(レイクサイドとうろ) 新庄久志 (KIWC)	塘路湖畔	釧路
		午 後	国立公園の施設の活用	塘路湖エコミュージアムセンター	塘路湖エコミュージアムセンター	
9月15日	水	午 前	フィールドを生かしたエコツアープログラム	新庄久志 (KIWC)	釧路湿原・細岡	釧路
		午 後	地域における施設の活用	渡辺 寿(細岡ビジターズラウンジ)	細岡ビジターズラウンジ	
9月16日	木	終 日	遊歩道の設置と活用	新庄久志 (KIWC)	釧路市湿原展望台/温根内遊歩道	釧路
9月17日	金	休 日				釧路
9月18日	土	午 前	休日			釧路
		午 後	ホームビジット			
9月19日	日	移動: 釧路→厚岸	ラムサール湿地におけるエコツアー	曙カヌー工房	別寒辺牛川・厚岸湖	厚岸
9月20日	月	午 前	移動: 厚岸→浜中 地域の湿地保全の取組み 霧多布湿原トラスト		霧多布湿原トラスト	厚岸
		午 後	地域のエコツアーの取組み 霧多布湿原トラスト 移動: 浜中→厚岸		ケンボッキ島	
9月21日	火祝	午 前	移動: 厚岸→浜中 地域の環境教育 霧多布湿原センター		霧多布湿原センター	厚岸
		午 後	学校教育における湿原観察 霧多布湿原センター 移動: 浜中→厚岸			
9月22日	水	午 前	移動: 厚岸→浜中 地域と連携したエコツアー 霧多布湿原センター		霧多布湿原センター	厚岸
		午 後	地域と連携したエコツアー 霧多布湿原センター 移動: 浜中→厚岸			
9月23日	木祝	午 前	地域における環境教育の取組み	澁谷辰生(厚岸水鳥観察館)	厚岸水鳥観察館	釧路
		午 後	移動: 厚岸→釧路			

9月24日	金	休 日				釧路
9月25日	土	休 日				釧路
9月26日	日	終 日	湿地保全とエコツアー	新庄久志 (KIWC)	釧路湿原キラコタン岬	釧路
9月27日	月	終 日	地域を生かしたエコツアープログラム	鶴居どさんこ牧場	釧路湿原	釧路
9月28日	火	午 前	ワークショップ(エコツーリズムの運営)	新庄久志 (KIWC)	釧路市観光国際交流センター	釧路
		午 後	アクションプラン作成指導	新庄久志 (KIWC)	釧路市観光国際交流センター	
9月29日	水	移動: 釧路→東京				東京
9月30日	木	終 日	里山におけるエコツアー	ケビン・ショート(東京情報大学)	千葉・印西	東京
10月1日	金	午 前	日本における国立公園の管理・運営	環境省自然環境局国立公園課	JICA東京センター	東京
		午 後	日本におけるエコツーリズム施策	環境省自然環境局ふれあい推進室	JICA東京センター	
10月2日	土	終 日	エコツーリズム総論	マーク・ブラジル		
10月3日	日	休 日				東京
10月4日	月	終 日	地域の伝統文化とエコツアープログラム	新庄久志 (KIWC)	東京・浅草(時代屋)	東京
10月5日	火	移動: 東京→京都				茨木
10月6日	水	休 日				茨木
10月7日	木	終 日	文化史跡とエコツアープログラム	真板和夫(嵯峨芸術大学)	京都・大覚寺	茨木
10月8日	金	終 日	地域の環境保全とエコツアープログラム	真板和夫(嵯峨芸術大学)	京都・大覚寺(大沢池)	茨木
10月9日	土	終 日	環境保全・伝統文化とエコツアープログラム	辻井ミカ・宗けい(嵯峨御流華道・茶)	京都・嵯峨御流華道総司所	茨木
10月10日	日	移動: 京都→釧路				釧路
10月11日	月祝	休 日				釧路
10月12日	火	午 前	アクションプラン作成	新庄久志 (KIWC)	釧路市観光国際交流センター	釧路
		午 後	ファシリテーション		釧路市観光国際交流センター	
10月13日	水	終日	アクションプラン発表会 評価会 閉講式		釧路市観光国際交流センター	釧路
		夕方	交流会		釧路市観光国際交流センター	
10月14日	木	移動: 釧路→東京				東京
10月15日	金	帰 国				東京

年 度 別 受 入 実 績 表

1. 応募／選定(受入)人数

	22年度	累計
応 募 数	12名	12名
受 入 数	8名	8名

2. 研修員の出身国

○男性 ●女性

国 名	22年度	累計
(アジア全域)		
スリランカ	○○	2名
タイ	●	1名
ベトナム	●	1名
(中南米地域)		
アルゼンチン	●	1名
(アフリカ地域)		
ケニア	○○	2名
ウガンダ	○	1名
計	6ヶ国 8名	6ヶ国 8名